

川上ダム通信

2015
11
月号



Vol. 122
Since 2005

独立行政法人水資源機構 川上ダム建設所
〒518-0294 三重県伊賀市阿保 251 番地 TEL: 0595-52-1661 (代)

川上ダム通信は川上ダムホームページでもご覧いただけます。
<http://www.water.go.jp/kansai/kawakami> 又は「川上ダム通信」で検索
ご意見・ご感想はこちらへ <mailto:somu1@lily.ocn.ne.jp>

青山小4年生「川上ダム調査」に出発！

10月17日、秋晴れのもと、青山小学校4年生67名を「水の調査隊」に任命し、「川上ダム調査」を行いました。この水の調査隊は、平成20年から伊賀市内の小学生を対象として、水の大切さや川上ダムについて学習することを目的に川上ダム建設所が出前講座として開催しているものです。

水の調査隊は、出発する前に、①地球上で使える水の量、②川上ダムの造られる場所とダムの大きさ、ダムで貯められる水の量、③ダムで蓄えられた水の使われ方、④川上ダムが洪水を貯めて下流の洪水を軽減することなどを学習しました。

また、オオサンショウウオについて、①オオサンショウウオの棲んでいるところ、②世界で一番大きい両生類であること、③前深瀬川流域で行っているオオサンショウウオの調査内容などを学習し、実際に教室でオオサンショウウオ（全長65cm、体重1.7kg、平成16年生まれ）を観察しました。児童の中には、川でオオサンショウウオを見つけたことがある児童もいて、身近な存在であることに驚かされました。

教室での学習の後、川上ダム建設予定地へ出発し、将来ダムの湖底となる地点（西之沢橋）でダムについて学習した後、既に完成している仮排水路トンネル内の調査を行いました。子供たちにとって真っ暗なトンネル内はまさに探検そのもので、トンネル内ではゲジやサワガニを見つけて大興奮で、児童からは「とっても楽しかった」「また来たい」など、とても好評でした。

ダムが平成34年度に完成する頃には、今回の水の調査隊に参加した児童は高校生になっています。この調査隊に参加したことが、良い思い出として残ってほしいと思います。



職員の説明を熱心に聞く児童



オオサンショウウオも登場！



ダムができる場所はココです！



仮排水路トンネルの中も調査！

【総務課 梅村喜重】

付替県道工事の進捗状況を紹介します

今年の4月号で「付替県道青美線最終工区を発注」と題して紹介した工事について、現在の進捗状況を紹介します。

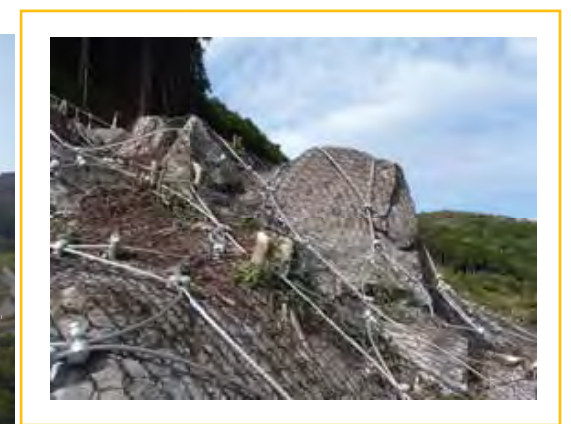
現在は、道路となる箇所（下中央写真の白線部）から上方にある多数の岩石に対し落石対策（下右写真）を進めており、人の体より大きなものからサッカーボール位の大きさのものまで大小さまざまな岩に対してフェンスやネット等による対策を行っています。

これらが完了すると、続いて法面対策（斜面が崩れてこないようにする対策）や、山を削ったり、土を盛るなどの工事を行い、最終的に道路面の舗装へと続いていきます。今後も工事の進捗具合等を適時紹介していきます。



工事前

現在



落石対策の状況

【工事課 飯島芳則】

川を流れる水の量はどうやって測っているの？

川の水を利用したり、洪水による災害を減らすための計画を作ったりする時には、川を流れる水の量（流量）を知る必要があります。ここでは、どのように流量を測っているのか紹介します。

流量（ Q ）は、水が流れる部分の断面積（ A ）に流れる速さ（ v ）を掛けて求めることができます。（ $Q=A \times v$ ）断面積は、あらかじめ川の形を測量しておくことで水位から求めることができます。流れる速さ（流速）を測る方法は2つあります。水位が低いときは、流速計という羽根車を使ってその回転の速さから流速を求めます。水位が高いとき（洪水時）は、浮子という紙でできた棒を川に流して、決められた区間を流れる時間を計ることで求めます。このような方法で、川を流れる水の量を測っています。



流速計



橋の上から浮子（赤線内）を投げる様子



水位観測の様子

【お願い】 増水した川は大変危険です。洪水時に観測作業を見に川へ近づくことはしないでください。

【調査設計課 森谷崇正】

～伊賀の歴史を訪ねて (8)～

先月号に続き「伊賀市史第三巻通史編（近現代）」より、4回シリーズの最終回をご紹介します。

避水移居

4. 一村三町の事業開始

小田村の移住開始 小田村は、1873(明治6)年7月より造成と同時に移住を開始した(「三重県史稿 政治部 工業」)。

上段に示したのは、小田村の移住に関する個人所蔵の資料である。この文書は、小田村の事業を応援するため駆けつけた人夫数とその村名を書き上げたものである。それによると、応援は、上野町町方からは全くなく、阿拝郡内の西部の村々からの人たちであることがわかる。これは、主に移住前の村の後片付けに駆けつけた時のものと推測されるが、このように、小田村の事業は、多くの近隣地域からの応援を得て進められた。計画書の一つに、「屋敷引移地戸数順次坪数帳」がある(「避水移居一件綴」三重県所蔵)。3町(馬苦勞・幸坂・清水)のそれに準ずるものとして「屋敷引移地戸数表間口順次帳」がある。小田村は農村の坪数による課税方法がとられ、馬苦勞・幸坂南町は市街地扱いとされ

明治十年六月十四日 第巻課御中	右ハ当区小田村避水移居ニ付去明治六年八月申書 面之通同区内各村ヨリ人夫ヲ以助力相成候ニ付何 分之御沙汰ニ可相成様仕度依而書面差上申候也	右移居世話掛 村田順造(印)	合三千三百三拾三人	同 百四拾三人	同 三百零人	同 百五拾人	同 九百人	同 貳百貳拾三人	同 百六拾三人	同 貳百七拾零人	同 貳百九人	同 百拾三人	同 百五拾三人	同 貳百三拾四人	同 百五拾人	同 六拾四人	同 第九大区二之小区 人夫計貳百六拾人
																	波野田村 久米村 下之庄村 浅宇田村 法花村 四十九村 西山村 長田村 木興村 大野木村 島原村 朝屋村 東村 西村

たため、間口による課税方法であった。近世から明治初頭にかけて、農業従事者の住宅は「郡村宅地」(または郷村宅地)、町家は「市街宅地」と区分され、小田村(一部を除く)は郡村宅地、ほかの3町は市街宅地という区分のなかで事業が行われた。これに基づき、小田村の屋敷割は、農業従事者の宅地を経営規模に応じて三段階に振り分けられた。農業従事者の居住地は、ほぼ字明治屋敷に集中し、130坪、100坪、75坪の3区分で屋敷割されていた(「三重県史稿 政治部 工業」国立公文書館所蔵)。どの地域を見ても屋敷割は階層別に実施されているが、小田村のように画一的に実施されたところは少ない。しかし、それは当時の地域社会の形態を如実に示したもので、今日に投げかける課題は少なくない。

清水町の事業 馬苦勞・幸坂・清水の3か町が県に願い出た移住先の面積は、馬苦勞町一町五反九畝二歩四厘、幸坂町八反三畝十九歩四厘、清水町一反七畝三歩八厘であったが(「避水移居一件綴」三重県所蔵)、このうち清水町は住居を移転していない。それにもかかわらず、被下切金・拝借金は最も多く412円に上り、これを移住予定戸数20戸で割ると、一戸あたりの平均受取額は20円60銭となり、小田村の12円53銭の倍近くに達する。その理由は、移住先が確保できず、水難から逃れるための唯一の手段として元の居住地をかさ上げたためとみられる。そして、改めて同じ場所に町づくりがなされたが、その後も水害を受け続ける結果となった。なお、この地域は、後年の都市計画事業によって福居町に吸収された。

馬苦勞町・幸坂町の事業 近世の馬苦勞・幸坂両町は、大和街道の西の入り口にあたり、大和街道と新居方面からの道の合流点は古くから鍵屋の辻と呼ばれ、荒木又右衛門の伊賀越仇討の舞台として知られる。馬苦勞町は運送業に従事する人たちが多く住む町で、幸坂町は街道を往来する旅人を相手とする宿屋や商店が並んでいた。安政の大地震以降、小田村同様、両町も頻発する水害に見舞われた。村田順造らの協力を得て、払下げとなった旧城郭の一部、外堀西面と西大手門までの同南西面およびその周辺を落札し、移住先とした。これにはやはり、西之丸居住の士族による抵抗、そして旧外堀の取壊しと埋立てといった困難があった。

表14 建設された屋敷の間口数と戸数

町	馬苦勞町	幸坂町	清水町
間数			
2間	3	0	0
2間3尺余	0	0	4
2間半余	36	22	8
3間	23	11	4
3間1~4尺	2	0	2
3間半	12	6	2
4間	18	17	1
合計	94	56	21

(「三重県史稿 政治部 工業」より)

清水町を含む3か町の「屋敷引移地戸数表間口順次帳」から、どれほどの規模の住宅が建設されたかがわかる。表14は3か町の間口数別戸数を示したものである。ちなみに、表記された間数は、当時の上野町における町家の平均的なものであったとみられる。

移住後しばらくは、馬苦勞町は「寿町」、移住した幸坂町は「幸町」、残留した幸坂町は「阪居町」と称したが、その後、寿町は「馬苦勞町」(西大手町)、幸町は「上幸坂町」、阪居町は「下幸坂町」へと町名を変更した。

村田順造の世話係残留 小田村と3か町の避水移居事業を指導した中心人物は小田村の村田であった。京都府出身の村田は、幕末期に村田家の養子となり、若くして同村の役職に就いていた。そして、午年の大水害後、持ち前の実行力で避水移居事業を推し進めた。多くの人々は、村田なしではこの事業は満足な成果を得られなかったと評した。しかし、1874(明治7)年、村田は病気を理由に避水移居事業の「世話係」の役を辞することを県に申し出たが、事業に取りかかったばかりの小田村と3か町はその残留を県へ嘆願した。残留を望む声が大きかったことから、村田は「世話係」に残留することとし、一村三町の事業を完成させた。村田は、事業完了後も小田地区の重役を務め、夜学校の設立などに尽力し、小田村に輝かしい功績を残した。



避水移居記念碑 (小田町)

【総務課 梅村喜重】

こどもつうしん

これ、なあに？



今回は名張市にある青蓮寺ダムを見学してきたんだ。まずは、右側の2枚の写真を見てね。オレンジ色のものがいくつもつながって、湖に浮いているよ。これが何か知っているかな？

じつは、オレンジ色をしたものは浮きになっていて、この下(水の中)には網がぶらさがっているんだ。

ダムのまわりで大雨がふると雨に流されて地面や川に落ちている木が湖にたくさん入ってくることがあるんだ。湖に木がたくさん入ってしまうと、ダムを傷つけたり、ダムから水を流すときに木がつまってしまうことがあるんだ。浮きにぶらさがった網は、木がダムまでいかないようにダムの手前で止めるはたらきがあるんだ。(下の写真)



え？木のほかに流れてくるものはないのかって？じつは、木のほかにも人が捨てたペットボトルや空き缶などのゴミが流れてくることもあるんだ。ダムの水は、みんなの飲み水や田んぼの水などに使われるとても大切なものだからキレイにしたいよね。だから、みんなはダムや川にゴミを捨てたりしないでね。

【総務課 山下朋穂】

イベントのお知らせ

第11回ふれあいフェスタ in 青山

開催日時：11月1日(日)
開催場所：伊賀市役所青山支所周辺
お問い合わせ：ふれあいフェスタ in 青山実行委員会
TEL：0595-52-0438

大村神社例祭

開催日時：11月2日(月)～3日(火)
開催場所：大村神社(伊賀市阿保1555)
お問い合わせ：大村神社
TEL：0595-52-1050

桐ヶ丘フェスタ2015

開催日時：11月14日(土)
開催場所：桐ヶ丘3丁目駐車場周辺・アミティー
お問い合わせ：桐ヶ丘フェスタ実行委員会
TEL：0595-52-0204

海の幸 山の幸 物産まつり

開催日時：11月29日(日)
開催場所：しらさぎ運動公園(伊賀市下友生3006-1)
お問い合わせ：伊賀市産業振興部農林振興課
TEL：0595-43-2302

編集後記

私の趣味はアユ釣り。今年のシーズンは、解禁日の前深瀬川の爆釣(詳しくは、7月号をご覧ください)から始まり、その後も、近くの名張川、長瀬太郎生川や、遠くは和歌山の白浜近くの日置川もめぐることができ、満足のいくシーズンを過ごすことができました。え？爆釣の後の釣果はって？聞かないでください。

11月からは、ワカサギ釣りのシーズンです。去年から始めたのですが、良いときは、1日で200尾以上釣れたこともありました。今年もようけ釣ったで～

【広報誌発行事務局】

編集長	加納(所長)	
デスク	梅村(総務課長)	小谷口(工務課長兼工事課長)
記者	山下(総務課)	本山(第一用地課)
	古川(第二用地課)	藤本(調査設計課)
	廣瀬(環境課)	日隈(工務課)

本紙に対するご意見と掲載記事を募集します♪

当建設所では、読者の皆様により一層親しみながら川上ダム通信をお読み頂けるよう、本紙に対するご意見や掲載記事を募集しています。詳細については、下記までお問い合わせくださいますようお願いいたします。

【問い合わせ先】

総務課 梅村 TEL：0595-52-1661
Mail：somu1@lily.ocn.ne.jp

※広告など営利目的のものはお受け致しかねます。